

《史料保存機関を訪ねて》

5 但馬国府・国分寺館

但馬国府・国分寺館は、但馬国府、但馬国分寺をメインテーマとして、平成十七年三月に開館した豊岡市立の施設です。設計されたのは、植村直己冒険館も手がけた栗生明氏で、新しい施設ということもあり、全面リアフリーとなっています。

但馬は兵庫県北部に位置し、日本海に面した地域です。『古事記』『日本書紀』などにも多くの伝承を残す、古代から独自の文化を発展させてきた地域でした。但馬には奈良時代から平安時代にかけての遺跡が二百カ所以上もあり、但馬国府跡、但馬国分寺跡もその一つです。但馬国府・国分寺館は、これらの遺跡から発掘された貴重な出土品を保存・展示し、後世に継承していくための拠点となる施設として設立されました。

収蔵資料は、但馬国分寺跡や但馬国府の跡である苧布ヶ森遺跡からの出土品の他、豊岡市内から出土した旧石器時代の貴重な遺物や江戸時代の資料などで、一般に公開されています。

展示室ではこれらの収蔵資料を展示していますが、特に目を引くのが巨大な但馬国分寺跡の井戸枠です。墨付という製材の目印となる線や、番付という組み立てる順番が書かれていて、当時の加工技術の高さを知ることが

できます。

これらの常設展示のほか、企画展示室では年に四回テーマを設定した特別展や、様々な企画展を開催しています。また、映像ホールでは、但馬国府と国分寺についてのビデオを上映しています。

受付では、但馬国府・国分寺館の展示図録をはじめ、年報、郷土の歴史や文化財、民俗、郷土出身の著名人を解説・紹介した書籍やパンフレットを陳列・販売しています。



そのほか、大学から講師を迎えて、万葉集や古事記、源氏物語に関する連続講座を開催しています。

展示を観覧するだけではなく、古代衣装の試着や勾玉づくり、土器づくり、火起こし体験、

遺跡巡り等、体験型プログラムも用意されています。また目の不自由な方にも楽しんでいただけるよう、一部の出土品は、実際に手に取ることもできます。

ホームページには、子供向けにわかりやすく解説したページが設けられているほか、担当職員である前岡学芸員のブログがあります。展示企画の難しさや博物館の裏側、発掘調査のことなどが親しみやすく書かれており、「敷居の低い、あらゆる人を楽しんでいただける施設づくり」を目指そうとする熱意がうかがえます。

但馬国分寺跡は、昭和四十八年の発掘調査以後、保存に向けた取り組みが始まり、平成二年には国の史跡に指定されました。その後も発掘調査の進展に伴い、追加指定を受けています。但馬国府・国分寺館では、発掘調査の結果を報告する現地説明会や、ＪＲの駅のギャラリースペース等を借りた出土品の館外展示を行うなど、考古学の最新の成果を住民の皆さんに伝えるべく努力されています。

館のある一帯が但馬国府の跡とされる祢布ヶ森遺跡ですし、徒歩十分程度で但馬国分寺跡も見学することができます。

但馬国府・国分寺館を訪れて展示をご覧になったあとは、付近を散策なさってください。古代但馬の政治・文化・交通の中心であった土地であることを、肌で感じるができるでしょう。



所在地：〒669-5305

兵庫県豊岡市日高町

祢布 808

電話：0796-42-6111

開館時間：9:00～17:00

休館日：水曜日、祝日の翌日

12月28日～1月4日

入館料：大人 500円

ホームページアドレス

[http://www.city.toyooka.lg.jp/](http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/top.html)

[kokubunjikan/top.html](http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/top.html)